

平成28年度 住之江区区政会議

第2回 魅力・ブランド部会 会議録

○高田ブランディング課長

そうしましたら、定刻前ではありますが、皆さん、おそろいくださっていますので、始めさせていただきたいと思います。

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、どうもありがとうございます。

それでは、議事に入らせていただく前に、本日の議事説明をさせていただきます。

本日の会議では、個人情報などの非公開情報が特にございませんので、公開とさせていただきます。また、議事録についても公表となります。公表いたします際は、ご発言者、ご発言内容につきましても公表となります。

会議中の写真につきましても、ホームページ等に掲載される場合がございますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。

はじめに、副区長からご挨拶申し上げます。安藤副区長、よろしくお願いします。

○安藤副区長

皆さん、こんばんは。副区長の安藤でございます。日ごろは区政にいろいろご支援、ご協力いただきまして、ありがとうございます。また、本日はお忙しい中、ご出席いただきましてことを厚く御礼申し上げます。

来年度の方針の作成にあたりまして、皆様方のご意見を頂戴したいということで、また、この会を開催させていただいております。地域の魅力を高めて住みたい、住み続けたいまちとしていくのが私たちの最終目標でございます。今年4月に区長もかわりまして、今までの取組の上に、また新しい色合いといいますか取組をつくれることができたらというふうに思っているところでございます。

ご承知のように、住之江区は大阪市で一番広いところでございますし、それもあって、非常に東の方は歴史のある古いまちですし、西の方は本当につい最近できたよう

なまちということで、いろんな経過ででき上がったところをごさいますて、いろんな資源が、実はまちの中にもいろいろあるというところをごさいます。

こういったものもしっかり生かしていきながら、この部会の目的をごさいます、魅力とブランドを向上させていくという取組を進めていければなと思っております。

私も、この4月にまいりまして、ほぼ5カ月というところをごさいます。ちょっと感じておりますのは、魅力・ブランドにあたりまして、今まで割とイベントに力を入れてきたというところをごさいますけれども、そのイベントに加えて、しっかり地に足のついた、イベントが地に足がついていないとは言いませんけれども、地道な取組も今後進めていければなということも思っております。

そのあたりも含めて、いろいろご意見をいただければと思っておりますところをごさいます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○高田ブランディング課長

ありがとうございました。それでは、進行を中村部会長にお願ひしたいと存じます。

中村部会長、よろしくお願ひいたします。

○中村部会長

皆さん、こんばんは。ただいまご紹介していただきました部会長の中村です。限られた時間でもありますので、皆様の活発な発言と議事へのご協力をひとつよろしくお願ひいたします。

それでは、資料に基づいて、事務局のほうから説明をよろしくお願ひします。

○高田ブランディング課長

それでは、議題1、平成29年度予算についてご説明いたします。お手元の資料、平成29年度予算についてという、1枚ものの資料をご覧ください。

ブランディング担当所管の3事業について、今年度と昨年度の取組をまとめております。一つ目の「すみのえアートビート」は、アーティストの皆さんを含めた地域と行政が一体となる形で事業を進めておりまして、内容の拡充も行っております。

チラシを資料としておつけしておりますので、ご参照ください。

佐藤さん、今年度の取組について、少しご説明、お願いできますでしょうか。

○佐藤委員

例年に加え、盛りだくさんでやっておるんですけども、今年度は、特に日程を変更して、前倒ししてやったんです。その理由が、この名村造船所も含め、北加賀屋一体の地主さんである千島土地さんが、大きいアート作品を所蔵する倉庫の御開帳みたいなものがあるんですけども、それに合わせてアートビートも一緒に開催しよう、それに加えて北加賀屋のまちのあちこちに、すみのえアートビートのマスコットの存在であるアヒルちゃんのミニチュアを置いて、スタンプラリーもしようということで、例年ですと、名村造船所の中だけで行っていたものを、今年は北加賀屋全体をぶらぶら回りながら、変わりゆく北加賀屋の様子と、名村造船所の雰囲気を楽しんでもらえるような内容にしているところです。

あわせて、オリジナル作品として名村造船所が近代化産業遺産に選ばれているんですけども、それをテーマにした15分、20分の短編映画も現在制作中ということでございます。

○中村部会長

今製作中って、間に合うんですか。

○佐藤委員

ほぼできましたけど。もうちょっとでできます。

○高田ブランディング課長

はい、ありがとうございました。

アートビートは以上のようなかたちで進めています。

次の「光のワンダーランド」でございますけれども、こちらは部会の皆様方からもさまざまなご指摘ですとか、ご提案をいただいております。今年度の実行委員会のメンバーにもご説明をさせていただいて、共有もさせていただいております。

本年度は、今回は地域の方にも、より参加いただく方向で調整を行っているところ
です。

最後の新旧の地域資源による「すみのえ活性化事業」、これにつきましては来春の
実施に向けて検討中です。ポップカルチャーなど新興の地域資源との組み合わせにこ
だわらずに、旧来の地域資源がより生かされる方策を探っていきたいというふうにか
えております。

以上、3事業につきまして、今年度は課題の解消も含めて内容を充実させて、基本
部分は来年度も引き継ぐ方向としたいと考えております。

また、先ほど副区長が申しましたように、イベント以外にもまちづくりの観点など
で住之江区のブランド力向上の検討を行いたいというふうにも考えております。

今、新たな区の将来ビジョンを策定しているところですが、こちらを踏まえ
て運営方針の策定も行ってまいります。ちなみにですが、これまでの区の将来
ビジョンでは、北加賀屋はもとより、住吉高灯籠ですとか、南港コスモスクエア地区
のコスプレなども全てアートと位置づけて、住之江区全体をアートで活性化するとい
うビジョンを掲げておりましたが、今回新たに策定いたしますビジョンでは、安立は
住吉大社の門前町として歴史や伝統が息づいているまち、北加賀屋は名村造船所の大
阪工場跡地を核にアートが集積するまち、南港はポートタウンをはじめ、大阪港の発
展の歩みとともに先進的なまちづくりが行われてきたまちというように、各地域がそ
れぞれの歴史とともに個性を育んでおりますので、こういった多彩な地域資源が存在
するのが住之江区の強みであって、これらを生かして区の活性化を図ることとしてい
ます。

最後に、参考資料をおつけしております。ホチキスどめの資料、こちらをご覧くだ
さい。

前回の区政会議で、杉村委員から住吉区で実施しているような補助金事業が住之江
区でもできないかといったご提案がございました。ヒアリングを行いましたところ、

それまで区が行ってきたイベントの自立化を待って、補助金方式にシフトしたと聞いております。

補助金方式を実現させるには、提案者において、イベントが自立的に行われる必要がありますが、アートビートを例えば区役所の人的関与なしで実施するというところにはまだ至っていないというのが現状です。

こういったことも踏まえまして、補助金事業の実施につきましては、実施主体となっていていただくところの体力のようなところも見据えながら、中長期的に検討する必要があるのではないかと考えております。

事務局からのご説明は以上です。

ご意見、ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

○中村部会長

今、説明していただきましたように、平成29年度の予算について皆さんのご意見をお伺いしたいと思いますけど、順番にまず住之江の近代化産業遺産の、先ほど説明のありました「すみのえアートビート」から順番にやっていきたいなと思うんですけど、どうですか。何かご意見ございますでしょうか。

これは、何かスタンプラリーを今回されるということなんですけれども、ここの裏にあるような、この地図でされるんですか。

○高田ブランディング課長

スタンプラリーにご協力いただけるところにご参加いただいたんですけれども、こちらの中から4か所行っていただいて、最後に「ク・ビレ邸」というところに行っていただくというかたちで、今回初めて展開をさせていただきます。

先ほど佐藤さんの方から1カ月早くイベントをやるという話をしていただいたんですけれども、この中の左の方に青色で「MASK」と書いているところがあるんですけれども、このメガアートのご開帳みたいなものが、ちょうどこの11日を挟む期間に実施されるということが、もともと決まっておりましたので、今回これに合わせて

スタンプラリーも含めて実施しようということで、実行委員会の中で検討してきたものです。

○中村部会長

「M A S K」という、裏の右上にあるこういう巨大なアート作品を展示しているんですか。

○高田ブランディング課長

はい、大きなアート作品を収蔵する場所に芸術家の方も困られているという現状があって、一方で、千島さんの方では、こういう倉庫が使われずにお持ちだということで、ウィンウィンの関係で収蔵されているんですけども、これを年に1回、一般に公開するイベントなんですけれども、せっかくなのでこちらも見えていただいて、相乗効果が双方のイベントに現れればということです。

○佐藤委員

もともと、現代アートの大きい作品が、パブリックアートに近いんですけど、例えば美術館のエントランスにどんと置くとか、駅前にどんと5メートルぐらいの作品を置くとか、そういうものをつくっているアーティストが関西圏にもいてはるけれども、それらの作品を1回つくって期間限定で、例えば駅前に展示するんですけど、それが終わったら1回どこかに片づけて、評判が良かったら、またよそのまちに置かせてもらうということをずっとやられているんですけども、その置く場所に困るということで、千島さんが自分のところの倉庫があいているので、そこに集めようということになって、条件として無償で置いてあげるから1年に1回地域の人を含め、公開させてほしいというのを条件にやっておられるというわけです。

ちょっと、さっきの高田さんの説明の補足をさせてもらおうと、これら北加賀屋でそういうふうなアートやいろんなアーティストが集まってきたり、実際にそういう壁に絵を描き始めたというところもあるんですけど、そういうのが2011年にメセナ協議会という企業が文化・芸術にどれだけ貢献しているかというのを図る制度があるん

ですけど、それでグランプリを受賞したんです、北加賀屋全体が。

それがものすごく我々のはずみにもなって、全国からそういうまちづくりの人とか都市計画の学生さんとかが今でも、私が知る限り5、6組は毎年インタビューに来たり、訪問されたりしているので、北加賀屋全体がだんだんそういうふうに変わっているというのを全国的にも認められた。

せっかくグランプリまでとったので、もうちょっと宣伝してもいいのではないかというのが今年目標。名村造船所は名村造船所でご存じのように、2007年に近代化産業遺産、日本の近代化を支えた産業の遺構ということで選ばれていますので、それら2つ、せっかく比較的大きな賞ですので、それを大切に基盤に据えて毎年イベントをやっていこう、いきたいなと思っています。

○安藤副区長

先ほど言いましたように、このイベントの取組が地域まで広がってきたというのは私ら区役所としてもすごくありがたいなと思っています、もちろんイベントそのものも意味があるわけですが、それがまちの活性化の大きな起爆剤になっていくように、私たちもお金を出す限りにおいては、そういう出し方をしていきたいなと思っています、まさにこれなんか、本当にありがたい事例と思っています。

だから、こういうのをどんどん広げていただいて、このアートをいかにここに根づかせるか、住之江といえばアートなんだというぐらいの、今おっしゃったようなところに、来年度はさらにどう発展させていったらいいのかなというあたりをまた一緒に議論させていただければなというふうに思っているところです。

○大津委員

このチラシなんかの周知徹底って、どの程度されているんですかね。

○高田ブランディング課長

まず、地下鉄の全駅に配架していただいています。あわせて主要駅にはポスターも掲示していただいています。

あとは。

○事務局

区内の中では、町会の各掲示板に張らせていただいて、あと、公共施設とか民間施設さんにも置かせていただいて、区外では各区役所さんとか主に芸術の関係でしたら江之子島にも芸術センターがあつたりするので、そこに貼らせていただいたりとか、さまざまところで早目のお願いをさせていただいています。

○大津委員

初歩的な質問ですけど、アートというのは、その芸術家の人がここに住み出したからアートという言葉が出たんですか。

○高田ブランディング課長

きっかけは、近代化産業遺産に認定されたのがそもそものはじまりです。

○大津委員

それはわかるんですけど、アートという「アートビート」という。私たち東側の間から見ると、「アートビート」というのはとてもわかりづらいんです。

なんや、それ。アートって何から由来してアートが出たのか。

○安藤副区長

なぜこの場所でアートなのということですか。

○佐藤委員

ちょっと、私の知る限りで説明させていただきます。

2007年に近代化産業遺産に認定された、その持ち主の千島土地株式会社さんの意向で少しずつイベント会場として使い出したというのが始まりです。それで、1年間に2万人ぐらい来るようになったのかな。名村造船所でのイベントに。

千島さんとしては北加賀屋の駅から名村造船所までの道が何もないのは寂しい、せっかく名村造船のイベントに来たのに、帰り何もないとか、立ち寄る場所もない。となると、空き家とか空地も多かったの、それを何とか新しい形の、ぶっ壊して何か

物を建てるのではなくて、再利用、リノベーションできる方法はないかということで、アーティストのアトリエとか、クリエイターの事務所みたいにしてはどうかということで、2009年から空き家再生プロジェクトというのが始まって、そこから「アート」という言葉が頻繁に聞かれるようになった。かく言う私も2009年に呼び出された参ったわけです。

○大津委員

千島さんの発想、プロジェクトはここから出たわけですか。

○佐藤委員

そうですね。

○大津委員

わかりやすく考えれば。

○佐藤委員

はい、そう言っても過言ではないと思います。

○安藤副区長

そのイベントに、区としても振興のためにお金を出しましょうということになっているというところなんです。

今後の議論のために正直なことを言いますと、我々頑張るんですけども、こういうお金の出し方というのが、さっきイベントの自立とかも高田が言いましたけれども、そこは我々、本当はちょっと知恵を絞らないかんところではあるんですね。ただ、いかんせん収益のあるものじゃないですから、そこをどうバランスをとっていくかというのは、私らに課せられている課題ではあるんですけどね。

何でもやりましょ、やりましょとそれが一番楽なんですけれども、そこは毎年、毎年知恵を絞っていかないといけない。だから、先ほど私が言いましたように、このイベントがきっかけで、こういう新しいまちの活気が生まれているんだというふうなことになる、私たちはお金を出しやすくなるという実態ベースでの話があるというこ

とですよ。

これは、地域というよりも、もともと千島土地さんの力で。だから、おっしゃった空き家なんかでもみんな千島土地さんが持っている住宅ですね。

○大津委員

そうですね、前に1回どこかで千島さんの講演を聞いたことがあります。

○佐藤委員

先ほど申し上げたメセナ大賞、グランプリを受賞した理由も、全国津々浦々でアートによる活性化、例えば寂れた商店街をアートで活性化しようというのはたくさんあるんです。グランプリを北加賀屋がとった理由は、とてつもない広さでやっている、それを。そこが将来的に何かのまちづくりの参考になるのではないか、というのが受賞理由と覚えています。

ただ単に商店街の一つをそういうアートで活性化するというレベルじゃなく、これだけの広い土地でまだまだポツンポツンなんですけど、私が当初来たのが3つしか拠点がなかったんですけど、今はようやく30ぐらいに増えていますので、地道ではあるんですけどだんだん広がっていっている、実質を伴ってきている。だから、大津委員がおっしゃるように、まだまだ「アート」という言葉ばかりが先走っている感はあるんですけど、地道に何とか頑張って追いつくようにやっております。

○安藤副区長

1年、2年で急に何かできるものでもないですから。まちづくりって地道、時間がかかると思うんですね。まさにイベントというよりも僕はまちづくりっていうかたちでの取組に持っていければなど。そうすると、時間はかかりますけれども、そこでしっかり定着するというのがまちづくりの良さだと思いますので。

○大津委員

ここの芸術家の人たちは今30人ぐらいいらっしゃるんですか。

○佐藤委員

人数はもう少し多いと思います。拠点が30カ所、中には一人で一軒家を借りて、1階で絵を描いて、2階で住んでいる人もいますが、一つの工場を5、6個の団体で借りているところもありますし、人数はちょっと完全には把握できていないんですけど、100人ぐらいおるかなと思っています。

○大津委員

その人たちがつくりはった、そういう芸術作品というか、そういうものはどこかで見られるようになっているんですか。

○佐藤委員

そうです、全体ではないんですけど、部分ですけど、例えばこの映像作品は主に北加賀屋に住んでいる人たちと北加賀屋で活動している人たちで制作していますし、ほかに農園、「みんな農園」なんかに出てくるワークショップ、小さいものをつくる、子供さんとつくるワークショップがあるんですけど、それなんかは実際住んでいる人たちにやってもらっています。

○大津委員

今、日本全国であちこちで、地方でそういう芸術家が、瀬戸内とか、北海道とか、地方で芸術を起こそうという試みがあちこちあるじゃないですか、そういうことなのかなという印象をもっていたんですけど。

○佐藤委員

そうですね。

○中村部会長

これね、予算がね、前年度に比べて平成28年度若干少なくなっていますよね。全体の予算の使い方がどうなのかちょっとよくわからないので、ここら辺の原因というのはあるんですか。

○高田ブランディング課長

基本的にシーリングということで、1割減。

○中村部会長

1 割減。

○高田ブランディング課長

はい、平成27年度から平成28年度にかけてはしております。平成29年度予算につきましては、中での調整もこれからしていくんですけども、基本的には据え置きで持っていけないかなというのは考えています。

○安藤副区長

どうしても、初動期はお金がかかるでしょうと。これは役所の常といいますか、さがみたいなところなんですけど、だんだん減っていくというところはあるのは事実です。そこをどうするのかというのは、担当者の手腕にもよるわけなんですけどね。

○大津委員

素朴な、私も疑問が。このことじゃないんです、立派な祭なんですけど。こういう住之江区といえばアートと、それもすばらしいと思うんですけど、住之江区のブランドデザインはどういうふうに描かれているのかなという気はするわけで、それは北加賀屋は北加賀屋で、それは広大な地域でこれが発展してきていると、それは育てていったらいいという。

じゃあ、真ん中の辺は真ん中で何かまたやるのか、東は東でやるのか、それとも、そういう住之江といえばアートビートと、こういえばこれは住之江区中にこれを広めるのか、どんなグランドデザインがどこかで作られているのかなという疑問は前々からしているんですけどね。

○安藤副区長

今、つくっているところなんです、まさに。区長がかわりまして、今その作業をやっているところです。

先ほど言いましたように、ブランド力を高めるということって、どういうことなんやと。これは私も区長も、区長の認識と私の認識が一致しているんですけども、も

もちろん、先ほど何遍も、有効な手段ではあるんですけども、イベントの効果をどう波及させるか、あるいはイベントなしで、もともとある資源を使って、もう一遍資源を掘り起こして、どうブランド力を高めていくかと、まさにまちづくりの領域だと思うんです。そここのところの取組をこれから地味ではありますが、それを継続的にやっていくということも非常に大切なことなのかなというふうに思っています。

先ほど東の方というふうにおっしゃって、まさに地元で、例えば安立まつりウィークなんかされているじゃないですか、あれって、すごいことだと思います。あの地域であれだけのことをされて、住吉の神輿がまちを練り歩いて、ああいうのも私は住之江区のすごいブランドだと思うんです。まさに住之江がなぜ住之江と呼ばれているかというところに行きついてしまうわけですから、そういうあたりも今、現に地元でされているので、それはそれでできるだけ頑張っていたきたいと。

だけど、私たちがそれにもし関与するのであれば、どういう関与の仕方をするのが一番、合理的なのかなというあたりも、これからちょっと考えていきたいなというふうには思っているところです。

先ほど言いましたように、東の方からまちができ上がって、ずっと西に、江戸時代からずっと新田開発が進んで、戦前にはもう既に埋め立てが始まって、戦後にどっと埋め立てが進んだといいます、いろんな歴史のフェーズがあって、それぞれに地域の良さがありますので、まさに名村造船所というのは戦前から戦後にかけての、大阪を象徴する場所でもあったわけで、それをその空間を生かして今こういう取組が進むわけで、もう少し東の方に行くと、さらに古い歴史があるわけですから、そういったものもまちの魅力として発信していく必要はあると思っています。

現に、住吉大社なんか行くと、最近たくさん外国人の方も来られていますから、ああいった人たちにアピールするようなまちの魅力というのをづくり、発信していければなと思っていますところですね。

○大津委員

私らは別に確たるものがあるわけじゃないんですけれども、一発勝負のイベントというのは、疲れだけが残る、ホンマに。ホンマですよ、どこの祭りも言うたらそういうことやと思うんですよ。

それを通して副区長おっしゃるように、そういうことが活かされて何かが歯車が回るというようなことにつながるのかなということを考えるときもあるんですけどね、それは私らのまちでいえば、あの辺はとにかく外人さんが増えました。まち歩きが増えました。旧街道ですからね。

ですから、そういうところをどう高めていくのか、それだってぞろぞろ人が増えれば、あるいはそれも良いかもしれませんが、どうつなげていくのか、まだもやもやしているところなんですけれども。

○高田ブランディング課長

そうやって、既存の資源を生かして、アートと一括りにせずに、高灯籠も含めてアートみたいなことを今まで言っていましたんですけれども、既存の魅力的な資源が、それぞれ異なった形で存在していますので、それを各地域で生かすような形で活性化が図れたらなど。

○大津委員

そうですね。

○中村部会長

時間もありますので、ちょっと住之江のアートビートの件は大体ご意見はそんなもんで。

どうなんですか、この予算についてこの部会で、いいか悪いかとか判断は。

○高田ブランディング課長

予算の考え方、大きな方向性だけですね、細かなことは行政のほうで。

○安藤副区長

柱だてという感じやね。

○高田ブランディング課長

そうですね。

○安藤副区長

アートビートと光のワンダーランドが来年も継続で、この新旧の地域資源によるすみのえ活性化事業についても何か、中身をつくり上げていって、来年度要求する、3本立てで要求したいと思っています、という提案ですね。

○高田ブランディング課長

そうです。

○中村部会長

とりあえず、アートビートの件はちょっとそのぐらいにご意見させていただいて、次に、光のワンダーランドの件で、いろいろ今までのブランド部会の中でもご意見出ていましたけれども、そういう周知徹底の方向だとか、そんなんはどうでしょうかね。

○高田ブランディング課長

周知徹底も、もちろん図ってまいりますし、光のワンダーランドの前に住之江区で行うイベントもございますので、そちらでさらに周知を拡充することも考えていきたいなと思っています。あと花火だけじゃないかとかのご指摘もございましたので、ATCという商業施設を使うという特性上、テナントさんとの折り合いというのがつきにくかったというのがあったんですけれども、そういったこともATCさんの方は地域からもご出店いただけるように、もう少し緩めるというか店側のほうとも調整を図っていただくというような話にもなっておりますので、もう少し広がりを持たせた形で事業ができたらなというふうに考えて、今会議のほうも重ねさせていただいているところです。

○大津委員

これはあれですか、大阪市全体のネオンサインをいっぱいつける時期があるじゃないですか、あれの一環なんですか。

○高田ブランディング課長

光の饗宴。そういう位置づけにしています。

○伊藤委員

ちゃんとライティングの雑誌に出るんです。

○大津委員

中之島とかやたらと。

○安藤副区長

光の饗宴ですね。わかりました。

○大津委員

あれの一環なんですか。

○安藤副区長

それに合わせているねんね。

○高田ブランディング課長

はい。

○安藤副区長

御堂筋とか、中之島あたりでもやっていますし、その海バージョンということですね。

○大津委員

これって、余計なことですけども、A T Cが中心になるわけですか。

○高田ブランディング課長

A T Cと区役所とで。

○大津委員

場所的に。

○高田ブランディング課長

そうです、場所はそうですね。A T Cさんが費用を負担していただいているという

こともありまして。

一方で、交通局のほうも乗客率の向上につながるというふうに判断してくれていますので、そちらのお金も引き出せる事業ではありますので、今回、どうかたちに落ちつけるかというところを問われているところではあるんですけど、できるだけ役所の予算をてこに広げられるということで、来年度も基本は引き継ぎたいなと考えているところです。

○安藤副区長

このあたりは、去年もこの前もいろいろ議論いただいて、この後は正直どう思われます。

○中村部会長

小川さん、どうですか。

○小川委員

地域からの出店というのは、どこからどう言い出したのか。どこかが出たいと言いつ出したんですかね。

○高田ブランディング課長

いや、実行委員会の中に、花の町・川邊会長のところに入っていたいていますので、すけれども、本当に花火だけのような形で終わってしまったということがありますので、もう少し地域の方も参加していただけるような。

○小川委員

花の町から出したいという感じですかね。店を出したいんですか。物を出したいんですか。

○高田ブランディング課長

参加していただきたいということです。

○安藤副区長

地域から具体的に何か言ってきているわけ。

○高田ブランディング課長

いえ、要請という形ではないです。むしろお願いをしているようなかたちですね。

○小川委員

何か出てきてくれないかとか。

○高田ブランディング課長

はい。

○中村部会長

難しいね、どうにかたちにするのか。

○大津委員

勝手な印象ですけれども、官・民でいえば、官主導というか、官先導というか、そういう事業のような印象を受けるんですけどね。

○安藤副区長

事の起こりとしてはそうですね。

○大津委員

うちのは地域から出たような印象、こちらは官主導。

○安藤副区長

A T C も、もし官やというふうになればですね。

○小川委員

去年もあれですか、そんな、花の町の人が入っていたんですか。

○高田ブランディング課長

去年もはい、実行委員会の中に。

○安藤副区長

区としては、南港も活性化してほしいという思いがありますので、これで人が来て賑わってくればというところで、もちろん良かれと思ってこういう動きを今までもしてきたんですけどもね。

あるいは、ほかのイベントとうまく、たまたま今は光の饗宴に合わせてということですが、南港にもいろんなイベントがありますから、そのイベントに合わせてやるというやり方もありだと思いますしね。

同じやるにしても、工夫の仕方が。

○高田ブランディング課長

はい、余地はあると思います。

○安藤副区長

これは相手のある話なので、我々の思いだけでできるかどうかというのはわかりませんが。

○小川委員

予算的にいうたらATCさんとか交通局さんから出ている部分もかなり大きい、占めているということですね、花火自体を上げるのに。

○高田ブランディング課長

そうですね、うちだけで180万円の事業になりますけど、それぞれ同額、もしくはそれ以上の額をそれぞれご負担いただいておりますので、そういう意味では。

○中村部会長

そういう客寄せの効果もあるから。

○高田ブランディング課長

はい、ATCさんについては。

○小川委員

業績が回復しているから、出してくれって。

○伊藤委員

子供なんだったっけ。

○小川委員

子供広場。あそびマーレ。

○高田ブランディング課長

はい、そうですね。

○小川委員

増えているみたいですね。

○伊藤委員

それで便乗させていただいているというような雰囲気の花火だけというところに垣間見える部分があるので。ですから、前回のクラウドの話の中で、とりあえずどこが主催して、どういうふうに行っているのかというのが、あまり意思表示としてぱっと表立ったものがなかったねっていうのが前回の反省点だったはずなんです。

ですので、それも資金源から垣間見えるものが根底に今、あるのではないのでしょうか。

前回も、ですから小川さんもおっしゃったように、あそこの部分だけじゃなくて、ライティング効果をするのであれば、庁舎があるWTCの方でライトでいろんなものが、要するにお部屋の明かりをつけたり消したりをして、PRできるもので、もっと協賛できるもの。

例えばATCならATCでお部屋のライトをつけてもらって文字を入れたりとか、そういうところ。ほかのところでやっていることも真似しちゃっても良いんじゃないかしらっていうのも提案事項の中に入っていたと思うんです。

○高田ブランディング課長

そうですね、その話まさに実行委員会の中に。

○伊藤委員

それで、協賛金がもう少し入れば、180万円しかないのは、花火だけで終わっちゃうはずなので、もっとお金を回収することで、それに見合った、例えばクリアファイルでも構わないし、そういう来ていただいた方に逆に区政が行っているPRができるものをお渡しできるものっていう形で、予算をみんなからもらう。お金をもらう。

180万円しか出せないようだったら、ほかにもっとPRできる手段を考えて、もっと協力してもらおう。

○高田ブランディング課長

そうですね、民間企業のご協力は、またこれからお願いしていく予定なんですけど。

○伊藤委員

もうひとつは力加減だと思うんだけど、だってどこが何をしているのかわからない。花火をポンポンポンと上げるだけだったら。

人混みがバツとあって、花火が上がります、ライトのイルミネーションみたいなのがあって、じゃあ、きれいだね。

あそこね、必ず土日には何かイベントを出してらっしゃるの。それは別に冬でも夏でも関係なく、例えば若い子たちがお歌を歌ったりとか、必ず何かでイベント、催し物をしてらっしゃるから、その中でじゃあ、本当に区政がやっていることだっていう意思表示が、本当にちっちゃいと思う。

○高田ブランディング課長

A T Cさんの取組にしか見えてないということですか。

○伊藤委員

取組もそうでしょうけれども、意思表示ができるものを何かで、ぱっと出せば。

○安藤副区長

意思表示というか、ここにあるようなまちへの広がり。

○大津委員

4つの連合とか地活協ですか、それはどういうふうにかんでらっしゃるんですか。

○高田ブランディング課長

花の町が。

○伊藤委員

だけですよね。

○高田ブランディング課長

はい。

○伊藤委員

ほかは入っていないはずですよ。

○大津委員

もったいないね。

○安藤副区長

そうなんですね。南港は南港でイベントがあつたりする、ポートタウンなんかでね、イベントがあつたりするので、そんなんとも、うまいこと合わせられたらなと思うし、でも、合わせちゃうと今度ポートタウンに行く人も減ってしまうしなというところもあるし。

○小川委員

場所的に実際電車とか車で来て降りて、目の前で花火を見て帰っちゃうので、多分南港の中にも入っていないと思うんです。

○安藤副区長

そうですね。

○小川委員

だから魅力を発信するイベントでもないような部分もあるのかなとは思いますがどね。

区として、もともと話をして大阪市の光の饗宴とやっているというところであれば、別に何も問題もなく、人も来てくれますし、交通局もATCさんも喜んでいただいているので、そこは問題ないかもわからないんですけども、これを南港の魅力発信によって書いてしまうと、違うかなっていう気はします。

多分、みんなこれもし、写真を撮ってSNSであげるときは多分ATCってあげると思うんです。ATCで花火。みんなにはタグがついて回るかなという形になって。

○安藤副区長

そうですね、南港のブランド力にどうつなげていくかという。

○小川委員

結構難しいですね。

○安藤副区長

そうですね。

○小川委員

単純に南港にあるものをいきなりあったものを見せることもできないと思いますし、感じてもらうこともできないので、住之江という文字か南港という文字、その4文字だけでもPRできたら、とりあえずそれをまず知っていただいた方が良いと思うので、その場所で何か写真が撮りたくなるような。

住之江とか南港が広がっていくようなことができれば、一緒に魅力発信になるかもわからないですけどね。

○伊藤委員

でも、ライティングがあるので、暗いから夜だろうと。夜のある日になってしまうので。

でも、夜のイルミネーションはすばらしくきれいだったけれども。そこで花火を上げられても、例えば大きな大きなボード、それこそ住之江の舞昆ホールが。舞昆ホールまでは要らないけれども、壇上、ホールの壇上ぐらいの大きなものの中に、「住之江区」というのを書いたりとか、「南港」って書いたりとか。

あそこでちょうど花火が上がっているところ、ただ単にアーケードになっていて、あそこが催し物の場所だけになってしまうので。

○安藤副区長

「住之江光のワンダーランド」に名前を変えてもらおうか。

○高田ブランディング課長

そうですね。

○伊藤委員

そこにポンとパネルでもいいですし、何でも構わないんだけど、意思表示ができるものがあれば。

○中村部会長

南港の魅力みたいなものができれば良いかなと思って。

○小川委員

多分魅力を見てもらうことはできないと思うんですよ。パッと見てみるということは絶対あり得ないと思います。絶対どこのまちでも多分ないと思うんです。ものがあるって、パッと見てそれが良いということはまずないと思うので。そこは名前を知ってもらうだけでも北加賀屋さんでもアートも一緒ですけども、とりあえず名前を知ってもらうだけで良いと思うんです。

そんな、一過性のイベントというか、こういうイベントをやったから魅力がわかるというのは絶対あり得ないと思うんです。

さっきの、スタンプラリーをするぐらいやったら、少しは魅力はわかると思うんです。そういうことがなければ、歩き回らなければわからないと思うので、まちのことは。

だから、名前だけで良いと思う。さっきの言われたのは、「光のワンダーランド」を「住之江」に。

○大津委員

変えてもらいましょ。

○小川委員

「すみのえアートビート」やから、多分みんな住之江ということを目にして、地下鉄なりでも来ていただけるし、わかっていただけるので。

○安藤副区長

正直、相手のあることで、相手との合意が要りますからあれですけども、そういう議論なんかもして行って。別に交通局は困らへんよな。

○高田ブランディング課長

困らないです。

○安藤副区長

A T Cがどう思うか。

○伊藤委員

A T Cさんは。

○小川委員

A T Cさんはなんも。

○安藤副区長

困らないですよ。ちょっと、そんな議論をふっかけてみようか。

○高田ブランディング課長

はい、すぐしてみます。

○安藤副区長

ちょっとそんな議論もしてみます。ありがとうございます。

○中村部会長

そうですね。

○大津委員

これね、うちの地域の辺から行った人もおるんですよ。聞いたことあるねんけど。

なんで寒いときするねん言うて。

○安藤副区長

そういやそうですね。なんで花火を冬にするねん。そういやそうですね。

○大津委員

なんで寒いときにするんですか。

○伊藤委員

そうやね、冬のあれだから。

○大津委員

そんな人もあったという。

○中村部会長

そうしたら、引き続き申しわけありませんけど、3番目の新旧の地域資源によるすみのえ活性化事業ということで、これもちょっと具体的にどんなのか説明していただけますか。

○高田ブランディング課長

もともとは、ここに書かせていただいていますように、歴史的な建造、旧来の地域資源とポップカルチャーに代表されるような新興の地域資源を組み合わせる住之江区の新たな魅力にして発信しようという事業でやっていたんですけれども、事業の中身を見ていただきますとおり、昨年度もむかしあそびとかで、特に新興の地域資源とのコラボというかたちにはなっていないで、名と実が乖離しているような状態なんです。

先ほど少しご説明でも触れさせていただいたんですけれども、地域資源との組み合わせにこだわらずに、既存の地域資源を活性化できるような形を探っていけたらなというふうには思っておりますので、事業自体はそんなに大幅な変更はないと思うんですけれども、この名目は少し表現を変えさせていただいた方が良いのかなとは思ったりもしています。

実際、加賀屋新田でポップカルチャーとのコラボなんかをしたときに、地元の方から非常に苦言をいただいたりとかということもあって、地元の方に喜んでいただけるようなかたちにしないと全然意味がないので、そこはこだわらずに既存の資源を活用できるようなかたちはどんなものかということで考えていきたいなというふうに思っています。

○大津委員

これは、うちとしてはまだ、そういう。そうですね、たまたま今年やってみたところですけども、地域資源というものは住之江区の中で随時あると思っています。紀州街道の安立1丁目から4丁目、約2キロメートルの両側は、数百年来のそういう遺産財産がいっぱいあるわけで、それを活用する形で一つ一つ取り上げればいいのかないと、いければね。

ただ、一発勝負ではなくて、今年は住吉さんの祭りをした初めの神輿洗という神事と神輿渡御の間の期間、約10日間をまつりウィークにしたんですけども、そういう場所的に1カ所だけではなくて、いろんな場所でできる、またその時間的にもいろんなときにできるというふうなのを我々の地域は目指したほうが良いのかなというふうに思っております。

漠然とした構想ですけども、多分いろんなスポットがあるし、いろんなことができるのではないだろうか。まだ、それは、アートビートさんみたいにここであひるが出てくるとか、ここで何とかができていないんですけども、生かせる道がたくさんある、そういう意味では住之江区で随一の生かす素材はあるなどは思っております。

ただ、地域の特徴としては非常に地域は熱心な人が多いですから、南港のような新しいまちじゃなくて、フレッシュな人はいないんですけども、年寄りばかりですけども、昔の人ばかりですけど、地域の団結というのも変な話ですけども、そういう人と人とのつながりはものすごく色濃いというか、そういうものが地域とつながれば、パワーになるんじゃないかなというふうに思っております。

今年は、試しにまつりウィークをやってみましたけれども、それはそれで、そういった中で手ごたえがあったんじゃないかなというふうに主催者の側では見ております。

○高田ブランディング課長

今大津委員がおっしゃってくださったようなところ、まさに私も実際にイベントに参加させていただいたりして、強く感じたところでして、今回新たに策定します区の

ビジョンでも、そういったことも盛り込んでいきたいなというふうに考えています。

○大津委員

ぜひ、よろしくお願いします。

○安藤副区長

住之江区にはちゃんとした大事な歴史資源がありますので、それを掘り起こしていく試みは、我々はやらなければならないというふうに今、思っていますので、またいろいろご相談させていただきながらいければなと思っています。

○大津委員

ぜひ、よろしくお願いします。

○安藤副区長

私も、全部じゃないですけど、神輿の打ち合わせから参加させていただいて、熱心を通り越して熱いですからね。燃えに燃えているという。

○大津委員

会議を開いたら喧々諤々。到底おさまらんぐらいに。それはほとんど1年続くんです。もちろん8月に近づけばヒートアップするんですけど、それは秋も春も一緒なんです、基本的には。

○安藤副区長

祭りが無形遺産とすれば、有形の古い建物なんかもいろいろあるので、何かうまく活用できないかなと思っていますね。

○中村部会長

そんなもんですかね。

○小川委員

その方向の3つの事業はどれぐらいの年代の方とか、どういう方を対象にしているんですか。区外とか、区内なのか。

アートビートでいうたら、子供をキッズ何とかというやつがあって。大体見ていた

ら子育て世代ぐらいとか、子供みたいなかたちなのかなと思うんですけど、それは区外からとか、市外からみたいなことで、交通局さんで全部貼っているとかですね。

○高田ブランディング課長

そうですね、交通局さんは乗降者の移動があればいいので。例えば光のワンダーランドでも、ポートタウンからお越しいただける方もカウントできますので、そこはこだわっておられないというところでして。

○小川委員

多分イベントをやる先というのがあると思うんです、何のためにイベントをやるというのが、イベントをやるのが多分、イベントをやりたいのがあって、イベント部会になっちゃうので。

イベント部会じゃないと思うので。そういうイベントをするために何をしたいか、どういう人を集めたいか、どういう魅力を発信したいかのためのイベントだと思うんですけども、その根本がちょっと見えていなくて。

その根本に対して僕らもそれは、こっちのほうが良いんじゃないですかとかは、自分たちの意見なり、地域の周りの意見をまとめた話はそろっていくと思うんですけども。

○高田ブランディング課長

そうですね、大きな目標としたら、自分の住んでいる地域に愛着をもっているという方を増やしたいというのがまず一つありまして、それも数値で追っていく必要があると考えています。

○小川委員

それはアートビートについて、全部ですか。

○高田ブランディング課長

全部についてですね、まずそれが一つあって、もう一つ、住之江区のことを知っていると言ったらちょっと漠然とした言い方ですけども、住之江区の認知度を上げて、

つまり住之江区外の方から住之江区に対する認知度というのも上げていくというのも、これまで目標に置いていたので、次年度以降どうするかというのは、実は中でも検討しているところです。

○小川委員

結構、アートビートさんに関しては、そういうところでは住之江の中でも認知度って上がっているじゃないですか。多分ラバーダックさんが結構。

でも、それがあって成功していて、みんなのイメージがあって、名前がわかってアートビートがあるねんって言ったら、行きたい、行きたいと。

僕ら、南港の方というのはなかなか行かないんです。島の方から本土に行かないんです、遠いんです。

でも行く人たちが増えてきているので、人もすごい増えているんですね、交通局さんが全部駆貼ってくれるということは。多分、すごい住之江区の中でまず認知度ができて、できるから多分区外になると思うんです。

まあ多分できてると思うんですけども、今度次のワンダーランドになったときに地域の人知らないの、地域の人何か出てきて、やりたいとかというところをもし根本にあるんだしたら、全く何もやったから住之江だとか、南港がってというのは。

○高田ブランディング課長

今まではなっていないですね。

○小川委員

何の効果も、検証のしようがないのかな。人がいっぱい来ましてっていう検証しかないと思うんですよ。一番下はこれからやっていこうということなので、まちを知ることってすごいことだと思うし、僕らが知らないと思うのは安立地域を知りたいと思うところとか、マップすらわからないし、どんなものがあるかもわからないので、そういうところは多分歴史好きな人も多いし、どんどんやっていったら住之江の人から口コミなりとか。

今はソーシャルネットワークがあるので、ソーシャルネットワークで広がって行って、まちにまた人が来て、まちに外人さんがいっぱい来て困るかもわからないんですけども、そういうことにもなっていくとは思いますが。

何がしくてやっているのかなって考えたときに。

○安藤副区長

こうなったらワンダーランドは課題ですね。

○小川委員

すごい課題になると。

○安藤副区長

イベントありきで始まったというのは事実ですね。賑わせで人を集めたいというところ、それは意味はないとは思いませんけれども、おっしゃったようにイベントの日だけなんでね、人が来るのは。それでイベントは地域にもまちにも何も残らないというところは、これがすごく課題ですね。

○小川委員

後付けでもいいので何か考えて。

○安藤副区長

そうですね。

○小川委員

人が来るということはすばらしいと思うので、それを何か持って帰っていただくなり、物じゃなくてもいいと思うんですけど。目で見れても良いと思うんですけど。

○高田ブランディング課長

写真が撮れるとかも含めてですね。

○安藤副区長

住之江に行ったという気持ちを持って帰ろうかと。

○小川委員

前回ちょっと言っていたのは、WTCの庁舎さん、「住之江区」って出してもらっただけで良いので。たぶんコンピューターで電気できると思うんですけど。

全部電気消せる状態に「住之江」だけでも。

○高田ブランディング課長

技術的にはできると思うんですけど。

○小川委員

「南港」だけでも、絶対撮ると思うんですよ、なんやこれって。撮ってこんなんしてらって。その日だけでも結構花火を見に来ていて、すごい人が来ているので、撮ったら広がっていくと思うので。

住之江区、すごいことしているな、電気代使って何をしているねんぐらいの、ちょっとしたバッシングになるかもわかりませんが。でもその方が安上がりというふうな、楽なのかなと、となると広がるということですね。

○高田ブランディング課長

もうちょっと話をしてみます。

○小川委員

せっかくやるんだっつらもったいない、それだけだつたら。

○安藤副区長

そうですね、おっしゃるとおりです。

○高田ブランディング課長

ありがとうございます。

○中村部会長

ありがとうございます。皆さん、ほかにご意見どうですか。

そうしたら、今日皆さんから貴重なご意見をいただきまして、一応、この3つの事業については継続してやっていくという方向はそれで良いのかなと。

あと、ワンダーランドの件は先ほどご意見が出ていますように、いろいろ発信方法

を考えていただく、名前の入れ方を考えていただくとか、そういうことも、ちょっと今後、検討していただければ良いじゃないかなと思います。

あと、今度の部会が9月27日にありますので、そのときにまた全体の話になるわけですね。

○高田ブランディング課長

そうですね、全体会議の中で、また話をさせていただきますし、その前にまた部会を改めて短い時間ではありますけど、していただくことになっていきますので、こちらの進捗もあわせて、またお話しできたらと思っています。

○中村部会長

では。私のほうは。

○高田ブランディング課長

はい、ありがとうございました。

そうしましたら、たくさんご意見を頂戴しましたので、まずは今年度、いろんな課題を解消できるように、我々としても進めさせていただきたいと思っていますし、来年度の事業につきましては、基本的な考え方は今お示しいただいたとおりなんですけれども、いろいろ改善できるところについては改善したかたちでさせていただきたいなというふうに思っています。

それでは、以上となりますので、皆様、どうもありがとうございました。

○安藤副区長

長時間どうもありがとうございます。